

研究課題名	VEGF-Rがもたらす大腸がんの多様性：血管新生阻害薬抵抗性メカニズムの解明
研究機関名	武蔵野赤十字病院 東京家政大学（共同研究機関）
研究責任者	所属 病理部 氏名 櫻井 うらら 所属 東京家政大学 氏名 澤田 めぐみ 富田 知里
研究期間	(西暦) 2019年4月1日～2022年3月31日
研究の意義・目的	VEGF-Rは血管壁で新たな血管を作るために働くと考えられてきましたが、最近では大腸がん細胞を含むがん細胞自身もVEGF-Rを発現していることがわかってきました。しかしながら、がん細胞に発現するVEGF-Rの働きはまだ十分にわかっていません。そこで、患者様が手術で摘出した組織（または、内視鏡的ポリープ切除術で切除した組織）を使用させて頂き、VEGF-Rを観察したいと考えています。これによりがんにおけるVEGF-Rの働きが明らかになり、より効果の高い治療方法が見つかることが期待できます。
研究の方法 (対象期間含む)	2013年～2019年に手術（または、内視鏡的ポリープ切除術）で摘出され保存された組織に対し蛍光抗体で免疫染色を行い、VEGF-Rの発現について顕微鏡で観察します。今回の研究ではDNA情報の解析は行いません。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む) ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	①研究使用目的 大腸がん組織内のVEGF-R発現パターンを蛍光免疫染色法で観察し、がんにおけるVEGF-Rの働きについて解明することを目的としております。 匿名化の方法:武蔵野赤十字病院から東京家政大学に持ち出す切片には、病院名と病理番号が記載されております。研究期間中、切片は病理番号にて管理いたします。 ②利用する情報の項目 下記のa, bのすべてを満たす手術検体から作成した切片を用います a. 対象期間：2013年～2019年 b. 対象症例：大腸がん（低異型度腺腫、高異型度腺腫、Carcinoma in sit、進行癌、肝転移巣、肺転移巣） ③利用する者の範囲 切片の作成は武蔵野赤十字病院で行い、染色及び観察は東京家政大学で行います ④資料と情報の管理責任者 武蔵野赤十字病院：病理部 部長 櫻井 うらら 東京家政大学：家政学部栄養学科 助教 富田 知里
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ  〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 病理部 氏名 櫻井 うらら  TEL：0422-32-3111（代表）6812（事務局内線） FAX：0422-32-3525